

# りんご栽培情報 第4号

令和7年6月23日  
J A アルプス  
富山県富山農林振興センター

## 1 概況

北陸地方の梅雨入りは、6月10日頃と前年よりも11日早く平年並となりました（前年：6月22日頃・平年6月11日頃）。

園芸研究所果樹研究センターの調査では、6月16日（満開53日後）の「ふじ」の果実横径は、42.0mm（前年比97、平年比100）で、前年よりやや小さく、平年並みに推移しています。

## 2 病害虫防除

梅雨期間中は、引き続き褐斑病（図1）の重点防除時期となり、輪紋病の重要防除時期でもあります。下表を参考にして散布ムラのないよう防除を実施してください。なお、降雨により病害の感染が広がるので、雨前散布を基本とし、散布間隔が10日以上開かないよう注意してください。

ハダニ類は、発生初期が重点防除時期です。高温・乾燥が続くと多発しやすくなるので、ほ場をこまめに観察して発生状況を確認し、早期防除に努めてください。

カメムシ類（図2）の発生が昨年に引き続き、平年よりも多い状況です。園地での発生・果実被害状況（図3）を確認し、防除薬剤の変更や、追加防除に努めてください。

成木基準

（散布量：500L/10a）

回	時期	対象病害虫	使用農薬	希釈倍率	100L当たり 必要 薬剤量
10	7月初旬	【非ボルドー体系】 輪紋病、褐斑病、斑点落葉病、炭疽病  ハマキムシ類、キンモンホソガ、 モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ (展着剤)	ユニックス顆粒水和剤47 オーソサイド水和剤80 ダイアジノン水和剤34(※1)  マイリノー	2,000倍 800倍 1,000倍  20,000倍	50 g 125 g 100 g  5 mL
		【ボルドー体系】 輪紋病、褐斑病、斑点落葉病、炭疽病 ハマキムシ類、キンモンホソガ、 モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ (展着剤の加用は必要ありません)	ICボルドー412(※2) ダイアジノン水和剤34(※1)	30倍 1,000倍	3.3 L 100 g
11	7月上中旬	斑点落葉病、褐斑病、輪紋病、炭疽病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、 ケムシ類、キンモンホソガ (展着剤)	ダイパワー水和剤 サムコルフロアブル10(※3)  マイリノー	1,000倍 5,000倍  20,000倍	100 g 20 mL  5 mL
12	7月中下旬	【非ボルドー体系】 斑点落葉病、褐斑病、輪紋病、炭疽病 ハダニ類 (展着剤)	ナリアWDG ダニオーテフロアブル(※4) マイリノー	2,000倍 2,000倍 20,000倍	50 g 50 mL 5 mL
		【ボルドー体系】 斑点落葉病、褐斑病、輪紋病、炭疽病 ハダニ類 (展着剤)	ナリアWDG ダニサラバフロアブル(※4) マイリノー	2,000倍 1,000倍 20,000倍	50 g 100 mL 5 mL

※1：コンフューザーRを設置している場合は、害虫の発生状況を確認のうえ、ダイアジノン水和剤34の散布を省略することができる。

※2：散布後にまとまった降雨が予想される場合は、薬害のおそれがあるためICボルドー412の散布を控える。

※3：カメムシ類の発生が多い園地では、サムコルフロアブル10をキラップフロアブル（2,000倍、14日前まで、年2回以内）に変更する。

※4：殺ダニ剤の効果を高めるため、殺ダニ剤の散布の前日までに草刈りを行い、ハダニ類が下草から樹上に移動した後に殺ダニ剤を散布する。

●農薬散布の際は、濃度や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。また、周辺の他の作物や住宅等に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。

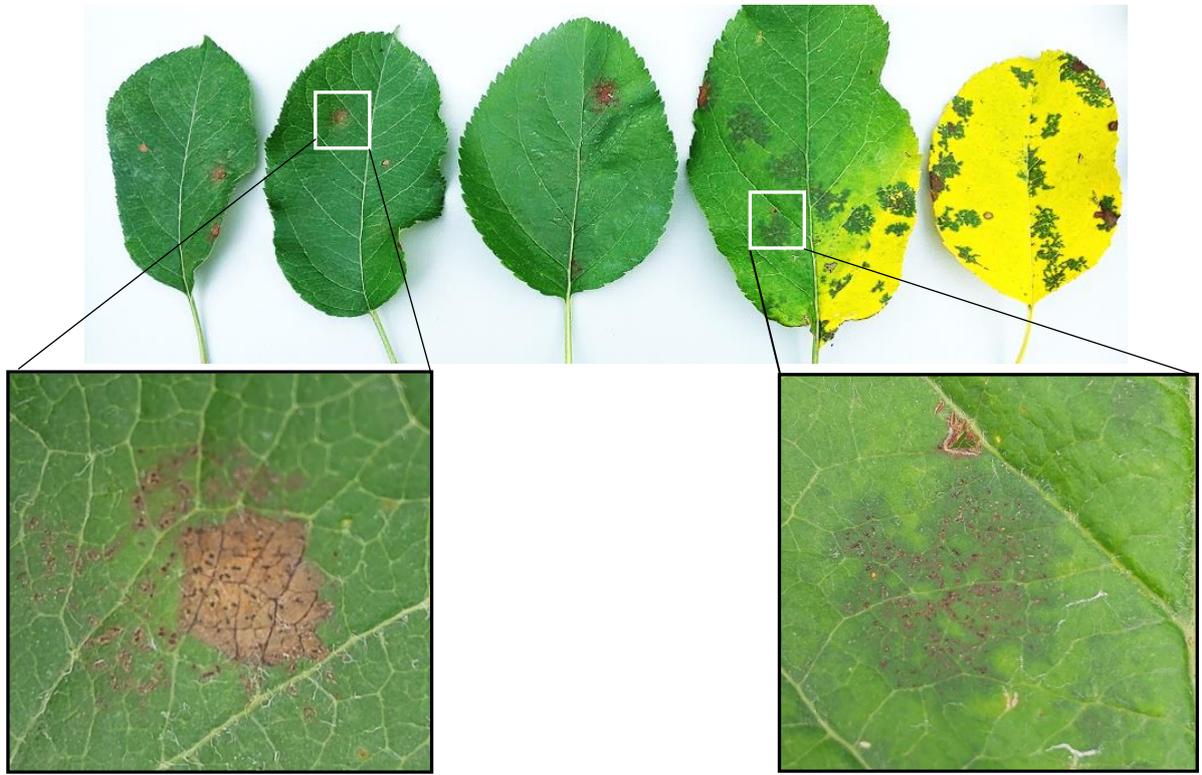


図1 褐斑病の罹病葉（病斑内部に小さい黒点が多数発生する）



チャバネアオカメムシ  
（体長 10~12mm）

クサギカメムシ  
（体長 13~18mm）

ツヤアオカメムシ  
（体長 15~18mm）

図2 果樹を加害するカメムシ類



図3 カメムシ類による果実の吸汁被害（破線部分）

- 農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。
- 脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。